

目 次

博士前期課程

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (1) 学生確保の見通し
 - ア 定員充足の見込み
 - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要
 - ウ 学生納付金の設定の考え方
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況
 - (3) 定員未充足の学科の学生確保に向けた具体的な取組状況
2. 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)
 - (2) 社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることへの客観的な根拠

博士後期課程

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (1) 学生確保の見通し
 - ア 定員充足の見込み
 - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要
 - ウ 学生納付金の設定の考え方
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況
 - (3) 定員未充足の学科の学生確保に向けた具体的な取組み状況
2. 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)
 - (2) 社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることへの客観的な根拠

I. 生命理学専攻博士前期課程

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

創価大学工学部では平成 27 年 4 月に「生命情報工学科」及び「環境共生工学科」を改組統合し、新たな科学技術を創造する理工系人材を養成するために、「共生創造理工学科」を開設し併せて工学部を理工学部へと名称変更した。

これまでは生命情報工学科を卒業した学生が進学する、工学研究科生命情報工学専攻を設置していたが、平成 32 年 3 月に卒業する共生創造理工学科の学生の進路の一つとして、生命理学専攻博士前期課程へと改組することとし、学生の定員を入学定員 15 名、収容定員 30 名と設定している。

本課程の前身である生命情報工学専攻への過去 5 年間の志願者は、平成 26 年度 15 名、平成 27 年度 22 名、平成 28 年度 23 名、平成 29 年度 16 名、平成 30 年度 13 名であった。

同様に入学者は平成 26 年度 11 名、平成 27 年度 18 名、平成 28 年度 18 名、平成 29 年度 14 名、平成 30 年度 10 名で推移しており、本課程の 15 名の定員をほぼ充足している。

入学者の内訳については、前身である生命情報工学専攻の場合は、平成 30 年度で見ると学内からの進学者が 9 名、学外者が 1 名となるなど、大半が学内からの進学者で占めており、定員充足の基礎となっている。

共生創造理工学科の前身である生命情報工学科の定員は 50 名で、過去 5 年間の生命情報工学専攻への入学者は 10 名～18 名で推移しており、これまでの入学定員をほぼ充足していた。今回改組される生命理学専攻の基礎となる、学部の共生創造理工学科の定員は 100 名であり、2 年生の秋学期で選択する専門領域を占める割合では 4 年生で 29 名が在籍している。併せて他の領域を選択している 4 年生の中で生命理学専攻の研究室に在籍している学生を併せると本課程である生命理学分野を専攻する学生は 44 名になることから、定員充足が見込まれると考える。

外国人留学生受け入れの観点では、2014 年より文部科学省が定めた「スーパーグローバル大学創成支援」に本学が採択され、それ以降外国人留学生が生命情報工学専攻に進学するケースがあり、平成 27 年度 1 名、平成 28 年度 1 名、平成 29 年度 3 名、平成 30 年度 1 名の留学生が入学した。

明年度以降も一定数の留学生の入学者が見込まれる。

工学研究科生命理学専攻博士前期課程 15 名の定員は、以下の実態から充足できると考える。

生命情報工学専攻博士前期課程の入学状況の推移

入学年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
志願者	15	22	23	16	13
入学者	11	18	18	14	10
うち留学生	0	1	1	3	1

後述する「定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」にて詳細は記載するが、工学研究科生命理学専攻が開設される予定の平成 32 年 4 月入学にむけて受験をする可能性が高い本学理工学部生（平成 30 年 7 月時点での学部 3 年生）を対象に、本専攻への進学意欲を質問するアンケート「創価大学大学院工学研究科生命理学専攻（仮称）設置構想についての学部生アンケート調査」を実施した。（資料 1）

その結果、大いに興味関心があるが 19%、興味関心がある 52%との回答を得た。

更に、大学院に進学する際に、どの専攻を希望したいかの問いに対して、39 名が生命理学専攻に進学したいとの意思表示があった。（資料 2）

本専攻の母体となる学部の共生創造理工学科の対象学生から、15 名が進学を希望していることになり、前述の留学生の受け入れを含めると、入学定員の 15 名は十分確保できる見通しである。

今後、本専攻の開設準備を進める中、広報活動により一層力を入れて、進学を希望する学生が求める情報を積極的に提供し、定員充足に努めて参りたい。

また、本学通信教育部経済学部、法学部等において定員未充足となっている。これは教育の機会均等および大学教育の門戸を万人に開くために、昭和 51 年度に本学の通信教育部を開設し、経済学科、法律学科で 2,000 名の入学定員を設け、収容定員を 8,000 名とすることで、多くの学生に教育の機会を与える体制をとったためである。

本学通信教育課程の開設（昭和 51 年）以前に開設された通信教育の大学も、一部の学部を除き、ほぼ全ての大学・学部において入学定員 1,000 名を超えて設定している。（資料 3）

過去 5 年間の正課生の入学定員充足率は 0.1~0.5 程度で推移しており、平成 29 年度の各学部の充足率は経済学部が 0.07、法学部が 0.07、教育学科が 0.48、児童教育学科が 0.23 であった。（資料 4）

上記の状況を鑑み、平成 27 年度に教育学部児童教育学科の入学定員を 700 名から 350 名とし、収容定員も 1,400 名に定員を減じることとした。

更に経済学部や法律学部についても平成 30 年 4 月に入学定員を変更し、それぞれ 1 年次の入学定員を 1,000 名、3 年次編入学定員を 100 名に変更した。入学定員を減じることにより、平成 30 年度以降の収容定員を 4,200 名に変更することで、定員未充足の状況は改善されると見込まれる。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

工学研究科生命理学専攻博士前期課程設置に関するニーズを把握するために、平成30年7月に、基礎となる学部である創価大学理工学部共生創造理工学科3年の在学学生100名を対象に、2020年4月に設置予定の生命理学専攻博士前期課程への意識調査並びに進学希望のため意向調査を行なった。

アンケート対象者を理工学部3年生にしたのは、対象者が開設初年度に進学する対象者であり、学科としても卒業する学生の意識や進路を確認する意味もあった。調査の概要は以下の通りである。

・調査時期

平成30年7月

・調査対象

新設となる専攻の基礎になる理工学部共生創造理工学科の3年生（110名）

・調査方法

大学院ガイダンス終了後でのアンケート調査を実施

・有効回答数

アンケートの回答状況はアンケート対象者110名に対し、有効回答数が84名で回答率は76.3%であった。

アンケート調査の有効回答数が8割に満たないのは、その後の個別調査で企業就職等の進学の意志がない学生や、環境共生工学専攻などの他専攻に進むことを想定している学生が、アンケート調査に回答していなかったことが判明している。

本調査の結果、工学研究科生命理学専攻に興味関心を持っているかどうかの問いに対し、

1. 大いに興味関心がある	16名（19%）
2. 興味関心がある	43名（52%）
合計	59名（71%）

と7割を超える回答者が興味関心を持っていることが分かった。

また、卒業後の進路として大学院に進学する際に、どの専攻を希望したいかの問いに対して

1. 生命理学専攻	39名
2. 情報システム工学専攻	2名
3. 環境共生工学専攻	23名

といった結果となった。

本調査の結果、59名が本専攻に興味を持ち39名が進学を希望していることが判明した。

このことから工学研究科生命理学専攻博士前期課程の定員 15 名は充足すると考える。更に留学生の進学希望者は前述したとおり毎年 1 名以上が見込まれているため、工学研究科生命理学専攻博士前期課程の定員 15 名は、充足すると考える。

【調査の概要並びに結果については資料 1、2 に掲載している】

ウ. 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、工学研究科博士前期課程の学費として、情報システム工学専攻や、環境共生工学専攻の 2 専攻と同等に設定されており、前身の専攻である生命情報工学専攻と同等の設定を行う予定である。

初年度納付金 ¥1,060,000

(内訳) 入学金 ¥200,000 (本学卒業生は半額とする)

授業料 ¥760,000

実習費 ¥100,000

なお近隣大学の同系研究科の学生納付金は以下の通りである。

(単位:円)

大学名(研究科名)	入学金	授業料	実習費	初年次学費計
東京工科大学(バイオ研究科)	250,000	1,095,000	0	1,345,000
工学院大学(工学研究科)	250,000	908,000	100,000	1,258,000
創価大学(工学研究科)	200,000	760,000	100,000	1,060,000

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

工学研究科生命理学専攻の設置にあたり、実施可能な PR 活動の範囲内で認可後の学生確保に向けた、全学的な取組みを以下の通り行う。

ア. 大学院設置認可申請と同時に、学内の学部生を対象に大学院説明会を開催する。

学部生向けにガイダンスを行い、進路相談を随時受け付け、何を学び、何を研究していくのかを具体的に説明する機会とする。

イ. 学内のポータルサイトを通じて学部生に告知をするとともに、理工学部ホームページを通じて工学研究科生命理学専攻を広くアピールする。

ウ. 留学生向けに英語ホームページを用意するほか、留学生向けの説明会を広く行う。特に中国・韓国・タイ等の海外事務所に新しい専攻の紹介パンフレットや募集要項を配布し、留学生の募集に努めていく。

エ. 進学情報誌への掲載や新聞広告等の掲載を通じて、広く国内外にアピールを行い新専攻の概要と学生募集の内容の周知を図っていく。

オ. 受験する世代に多く利用されている、SNS やホームページなどの電子媒体でも幅広く訴求し、学内外の受験希望者を募っていく。

平成 26 年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に本学が採択され、留学生向けの広報宣伝活動が活発となり、多くの受験生が志願するようになってきた。今年度に入學した生命情報工学専攻の 1 年生は台湾、マレーシア、韓国と多様な国々からの留学生を受け入れた。

特に平成 28 年度から始まった、JICA 主催のシリア難民に対する人材育成事業の「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム」に本研究科も参加しており、現在研究生として工学研究科で受け入れている 2 名のシリア留学生の内、1 名が生命情報工学専攻として入學している。

本プログラムは、将来のシリア復興を担う人材を育成する観点から、JICA の技術協力等を活用し、5 年間で日本全国の大学で最大 100 名のシリア人留学生を受け入れるプログラムとなっており、JICA と UNHCR との協定に基づき実施されている。

具体的には、平成 29 年 9 月から平成 33 年 9 月まで、シリア人留学生を日本の大学院で最大年間 20 名を受け入れるもので、学位（修士）の取得を支援することになる。

本学では経済学研究科と、工学研究科が対象となり募集をしたところ、工学研究科情報システム工学専攻と生命情報工学専攻に 1 名ずつ採用された。

本年も本学の工学研究科に対し 6 名の志願者がおり、そのうち 1 名が生命情報工学専攻を希望している。

順調に手続きが進み、今回の生命理学専攻の設置認可が認められた際には、上記の取組みにも反映して世界平和・国際貢献の一助にして参りたい。

(3) 定員未充足の学科（通信教育課程）の学生確保に向けた具体的な取組状況

過去 5 年間にわたり、定員超過率が 0.7 倍未満となっている通信教育課程のうち、経済学科及び法律学科では、平成 30 年 4 月に入學定員を変更し、経済学科、法律学科ともに 1 年次入學定員を 1,000 名、3 年次編入定員を 100 名に変更する予定である。

この 1,000 名の入學定員の設定については、引き続き教育の機会均等及び、生涯学習のニーズの高まりに対応するため、過去 5 年間の入學者数に過年度の在籍者数を加味した数値、また減員後の収容定員数を参考とした。

過年度の在籍者数、および収容定員数を参考にしたのは、仕事の形態が多様化する昨今にあって、主にスクーリングを実施している土日等に社会人が休日を確保し、学習に時間を継続してとることが難しい状況などがある中、卒業までにかかる時間が通学課程よりも長期にわたることが考えられるからである。

そうした考えから入學定員の設定にあたり、具体的には、経済学科、法律学科の過年度の在籍学生数を含めた合計数について、過去 5 年間の平均値を 4 学年で除したうえで、さらにその数値を 0.7 で除した数値を参考とした。また、在籍学生総数の過去 5 年間の平均値を減員後の収容定員数（4,200 名）で割った数値もあわせて参考とした。

なお、児童教育学科については、平成 27 年度より 700 名の定員を 350 名に減じる届出をおこない、定員の充足の改善に努めている。

また、学生確保に向けた取組も次のように力を入れている。

- ア. 平成 27 年度からは学びの門戸をより大きく広げ、通信教育課程への入学のきっかけとなっていくよう科目等履修・自由選択コースで開設されていた科目を、7つのテーマに分類し、3科目を1つのパックにして受講できるシステムを導入した。これにより科目等履修生の入学者が平成 27 年度より増加した。
- イ. 科目等履修での学びを終えた学生に、正科課程の入学パンフレットを配布するなど、入学啓蒙も積極的に実施しており、本学通信教育課程で学んだ学生が、今後正科課程に入学することも大いに期待できる。
- ウ. 本学通信教育課程では平成 26 年度より大幅なカリキュラム改訂を行い、これまで以上に学びやすい科目編成へと改革を実施した。更にスクーリングにDVDによるメディア授業を加え、自宅における学習が進むように改善した。
- エ. 学習サポートを総合的に実施する「学習支援推進室」を設置し、メディア授業の双方向性を確保する他、学習サポート体制を充実させた。また、ICT化の推進によって現在すでに、履修登録、スクーリングの申込、成績表の確認などがWEBで行えるようになっているが、卒業に必要なスクーリング単位を、自宅での学習による「eスクーリング（オンデマンド）」で修得できるeスクーリング科目を拡充し、日本だけでなく世界のどこからでも学べる環境を充実させる。
- オ. 収容定員を減ずる予定の経済学科・法律学科の他、0.7倍に満たない、教育学科・児童教育学科についても、これらの取組を今後より一層の広報宣伝を図り、定員充足の改善に努めていく。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

平成 28 年 8 月に発表された、文部科学省並びに経済産業省主催の理工系人材育成に関する産学官円卓会議の提案「理工系人材育成に関する産学官行動計画」の中で、「産業界における能力と意欲に応じた適材適所での理工系人材の活躍促進が課題となっているため、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組んでいく必要がある」とある。

本専攻の博士前期課程で養成する人材像は、生命科学に分野における「知」の創造、すなわち、まだまだ明らかにされていない生命という精緻にして柔軟なシステムの仕組みについて明らかにする人材である。また最先端の生命科学とその進歩が現代社会に及ぼす影響を理解し、「知」を共有するために研究者と社会とを橋渡しする人材である。

博士後期課程に進学し研究者となる者のみならず、生命科学の進歩が現代社会に及ぼす影響を理解し、中学校・高等学校で教育にあたる人物（教員）や、研究機器メーカーの技術サポートや営業職、医薬情報担当者等の高度専門職業人などを養成することを目的とする。

専門的知識の教授のみではなく、研究を通しての論理的な思考の訓練、研究成果の発表や議論を通してのプレゼンテーション能力の開発や説得力の修得を促し、生命科学系の業界でなくとも知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成し育成することを目的としている。

(2) 社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることへの客観的な根拠

平成 27 年 3 月に発表された文部科学省の理工系人材育成戦略では、「その実現において、未来を築く最先端研究開発から、グローバルに人々の生活を一変させる全く新しい商品開発、日常生活を堅実に支える製品開発・運用まで、新しいアイデアと高い技術力を駆使し実用へと導くことのできる付加価値の高い理工系人材は、欠くことのできない存在である。このことを重視し、我が国は、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組んでいく必要がある」と謳われている。

実際に、全国の大学生全体に占める理工系学部学生の割合は、平成 9 年度ごろから減少を続け平成 25 年度には 21.6%にまで低下しており、平成 11 年度の 63.1 万人をピークに 55.4 万人まで減少していることから、理工系人材の戦略的育成の必要性がうかがえる。

更に、平成 17 年度の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」ならびに平成 23 年度の中央教育審議会答申「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」を踏まえて、本専攻では、体系的な教育カリキュラムと組織的な教育・研究指導体制を構築し、人材育成に当てるものとしている。

近年目覚ましい科学技術の進歩に伴い、大学院修了者の新聞社、テレビ、雑誌等の解説員や科学博物館の科学コミュニケーター等、多様な分野での活躍が求められるが、これまでの研究機器メーカーの技術サポートや営業職のみならず、医薬情報担当者 (Medical Representative, MR) や医薬品卸販売担当者 (Medical Specialist, MS)、臨床検査薬情報担当者 (Diagnostics Medical information Representatives, DMR)、治験、臨床開発に関する業務 (Clinical Research Associate, CRA) など、高度専門職業人としての社会的需要は高まるばかりである。

例えば、製薬業界では平成 22 年に大型新薬の特許切れを機に、より短期間で治験を進めるために、開発業務の要となる製薬メーカーと医療現場との橋渡しを行う、CRA (Clinical Research Associate) 臨床開発モニターの採用を活発に行っている。日本 CRO 協会「2016 年年次業績報告」によると、平成 24 年には 4,500 名程度だった CRA が平成 28 年には 6,500 名まで増加している。(資料 5)

日本 CRO 協会 会員の総従業員数の業務別割合の推移より

年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
総従業員数	12,473	12,361	12,757	14,161	15,671
CRA	4,554	4,897	5,217	5,800	6,527

これらの社会的・地域的な人材需要の高まり動向に対し、生命理学専攻として他大学や、企業、理化学研究所等の研究機関が開催する講習会やサマースクール等への参加とそこでの学修を評価し、単位認定するための科目を用意し、多様なキャリアパスを確立するための視野の拡大を促すこととしている。

また前述した文部科学省の理工系人材育成戦略では、「グローバル化の進展の中、研究者のみならず、技術者等の活動も国際化が進んでいる。このことを踏まえアジアをはじめとする各国の留学生の受入れをはじめ、大学等の教育機能の国際化を推進し、語学等の対応能力を有するのみならず、世界規模での課題発見・解決等ができる理工系人材を育成する」と記されており、教育機能のグローバル化が求められている。

具体的には、過去 30 年間で全世界の留学生数は大幅に増加し、1975 年の 80 万人から 2011 年の 430 万人へ、5 倍以上の増加しており（OECD“ Education at a Glance 2013” Box C4.1 より）、更には日本国内の外国人留学生数の推移によると、日本の高等教育機関に在籍する外国人留学生については、1983 年の 10,428 人から 2010 年の 141,774 人まで増加している（日本学生支援機構の調べ）

これらのことから更なるグローバル化社会に対応するため、半数以上の科目を英語で開講し、外国人留学生が英語で講義・研究指導を受けて必要単位を取得、修了すること（EnglishTrack）を可能とするプログラムを、既に本専攻の前身である生命情報工学では導入しており、本専攻でも同様に実施する予定である。日本人学生にも上記のコースを提供することで、外国人とのコミュニケーション能力を開発し、課程修了後にグローバルに活躍できる人材に養成することを目指す。

平成 30 年 10 月に文部科学省初等中等教育局から、「免許外教科担任制度の適切な運用について」と題した通知が、全国の都道府県教育委員会宛に発信された。これは同年 9 月 18 日に免許外教科担任制度の在り方に関する調査研究協力者会議の報告書を受けて発信されたものである。報告書には免許外教科担任が授業を行う際の、質の向上や教員の負担軽減を図ることを目的としてまとめられており、止むを得ず許可を出す際の考え方や留意事項などが検討・整理されている。

通知では報告書を受けて、免許外教科担任について安易な許可を行わないことが確認されその上で、学期中の急な欠員が発生した場合に限るなど、教育委員会に対し段階的に整理し免許外教科制度そのものを見直すよう新たな指針が掲げられた。

指針では各教科の適正な採用と配置が求められ、養成、採用、研修の対応が必要とされている。更には免許外教科担任を許可する際は取りうる手段を尽くして、当該教科の免許状を有する教員の確保に努めるよう留意事項に記載されており、この点から見てみても「教員」養成の社会的ニーズが高まっていると考える。

本専攻の前身である生命情報工学専攻では、「理科」の高等学校教諭専修免許状及び中学校教諭専修免許状を取得することができ、ほぼ毎年都道府県の教育委員会に中学または高校の教師として採用されている。専修免許の取得を目指す教職課程の学生も毎年複数名登録しており、進路の一つとして確立している。

生命情報工学専攻博士前期課程の教職課程の状況

入学年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
課程登録者	1	2	2	0	2
教職採用者	0	1	2	0	0

このようなことから、本専攻が養成する人材の社会的需要はあると考える。

II. 生命理学専攻博士後期課程

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

本学では平成 27 年 4 月にこれまでの「生命情報工学科」及び「環境共生工学科」を改組統合し、新たな科学技術を創造する理工系人材を養成するために、「共生創造理工学科」を開設し併せて工学部を理工学部とした。

これまでは生命情報工学科を卒業した学生が進学する、工学研究科生命情報工学専攻を設置していたが、平成 32 年 3 月に卒業する共生創造理工学科の学生の進路の一つとして、生命理学専攻修士課程を設置することとし、学生の定員を入学定員 15 名、収容定員 30 名と設定している。

併せて、生命理学専攻博士後期課程を設置することとし、学生の定員を入学定員 5 名、収容定員 15 名と設定している。

過去 5 年間の既設の生命情報工学専攻博士後期課程への入学者は、平成 26 年 0 名、平成 27 年 6 名、平成 28 年 0 名、平成 29 年 2 名、平成 30 年 3 名であった。

志願者は平成 26 年 0 名、平成 27 年 6 名、平成 28 年 0 名、平成 29 年 2 名、平成 30 年 4 名となっている。

入学者の内訳については、生命情報工学専攻博士後期課程は、大半が学内からの進学者で占めており、定員充足の基礎となっている。

加えて、本学が採択を受けたスーパーグローバル大学創成支援により、外国人留学生在が日本の大学院に進学するケースがより一層増えており、生命情報工学専攻博士後期課程でも平成 30 年度 1 名の留学生在が入学した。

明年度以降も一定数の留学生在の入学者が見込まれる。

生命情報工学専攻博士後期課程の入学状況

入学年度	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
志願者	0	6	0	2	4
入学者	0	6	0	2	3
うち留学生	0	2	0	0	1

後述する「定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」にて詳細は記載するが、工学研究科生命理学専攻が開設される予定の平成 32 年 4 月入学にむけて受験をする可能性が高い学年（平成 30 年 7 月時点での博士前期課程と理工学部共生創造理工学科 4 年生の在籍者）を対象に、本研究科への進学意欲を質問するアンケート「創価大学大学院工学研究科生命理学専攻（仮称）設置構想についての大学院アンケート調査」を実施した。（資料 6）

その結果、大いに興味関心があるが 45%、興味関心がある 55%との回答を得た。

更に、大学院に進学する際に、どの専攻を希望したいかの問いに対して、11 名が生命理学専攻博士後期課程に進学したいとの意思表示があった。(資料 7)

本専攻と基礎となる生命情報工学専攻博士前期課程及び学部の共生創造理工学科の対象学生から、11 名が進学を希望していることになり、前述の留学生の受け入れを含めると、入学定員の 5 名は十分確保できる見通しである。

今後、本専攻の開設準備を進める中、広報活動により一層力を入れて、進学を希望する学生が求める情報を積極的に提供し、定員充足に努めて参りたい。

また、本学通信教育部経済学部、法学部等において定員未充足となっている。これは教育の機会均等および大学教育の門戸を万人に開くために、昭和 51 年に本学の通信教育部を開設し、経済学科、法律学科で 2,000 名の入学定員を設け、収容定員を 8,000 名とすることで、多くの学生に教育の機会を与える体制をとったためである。

本学通信教育課程の開設(昭和 51 年)以前に開設された通信教育の大学も、一部の学部を除き、ほぼ全ての大学・学部において入学定員 1,000 名を超えて設定している。(資料 3)

過去 5 年間の正課生の入学定員充足率は 0.1~0.5 程度で推移しており、平成 29 年度の各学部の充足率は経済学部が 0.07、法学部が 0.07、教育学科が 0.48、児童教育学科が 0.23 であった。(資料 4)

上記の状況を鑑み、平成 27 年度に教育学部児童教育学科の入学定員を 700 名から 350 名とし、収容定員も 1,400 名に定員を減じることとした。

更に経済学部や法律学部についても平成 30 年 4 月に入学定員を変更し、それぞれ 1 年次の入学定員を 1,000 名、3 年次編入学定員を 100 名に変更した。入学定員を減じることにより、平成 30 年度以降の収容定員を 4,200 名に変更することで、定員未充足の状況は改善されると見込まれる。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

工学研究科生命理学専攻博士後期課程設置に関するニーズを把握するために、平成 30 年 7 月に、基礎となる学部である創価大学理工学部共生創造理工学科 4 年の在学生ならびに工学研究科生命情報工学専攻 1 年生を対象に、2020 年 4 月に設置予定の生命理学専攻博士後期課程への意識調査並びに進学希望のため意向調査を行なった。

アンケート対象者を当該学科 4 年生ならびに工学研究科生命情報工学専攻 1 年生にしたのは、対象者が開設初年度に進学する対象者であり学科としても卒業する学生の意識や進路を確認する意味もあった。

調査の概要は以下の通りである。

・調査時期

平成30年7月

・調査対象

新設となる専攻の基礎になる理工学部共生創造理工学科の4年生ならびに工学研究科生命情報工学専攻1年生

・調査方法

大学院ガイダンスでの席上でのアンケート形式

・有効回答数

アンケートの回答状況は、大学院進学内定者で理工学部共生創造理工学科の4年生が4名、工学研究科生命情報工学専攻1年生から6名の合計11名の回答があった。

本調査の結果、工学研究科生命理学専攻に興味関心を持っているかどうかの問いに対し、

1. 大いに興味関心がある	45%
2. 興味関心がある	55%
合計	100%

と全ての回答者から興味関心を持たせることが出来ていることの感触を得た。

また、卒業後の進路として大学院に進学する際に、どの専攻を希望したいかの問いに対して

1. 生命理学専攻	11名
2. 情報システム工学専攻	0名
3. 環境共生工学専攻	0名

といった結果となった。

本調査の結果、11名が本選考に興味を持ち進学を希望していることが判明した。このことから工学研究科生命理学専攻博士後期課程の定員5名は充足すると考える。このことに加え留学生の進学希望者は前述したとおり、毎年1名以上が見込まれているため、このことから工学研究科生命理学専攻修士課程の定員5名は、充足すると考える。

今後、本専攻の開設準備を進める中、広報活動により一層力を入れて、進学を希望する学生が求める情報を積極的に提供し、定員充足に努めて参りたい。

【調査の概要並びに結果については資料6、7に掲載している】

ウ. 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、工学研究科博士後期課程の学費として、情報システム工学専攻や、環境共生工学専攻の2専攻と同等に設定されており、季節の専攻である生命情報工学専攻と同等の設定を行う予定である。

初年度納付金 ¥970,000
(内訳) 入学金 ¥200,000 (本学卒業生は半額とする)
授業料 ¥650,000
実習費 ¥120,000

なお本課程を含む近隣大学の学費は以下の通りである。

(単位:円)

大学名(研究科名)	入学金	授業料	実習費	初年次学費計
東京工科大学(バイオ研究科)	250,000	1,095,000	0	1,345,000
工学院大学(工学研究科)	250,000	908,000	100,000	1,258,000
創価大学(工学研究科)	200,000	650,000	120,000	970,000

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

工学研究科生命理学専攻の設置にあたり、実施可能なPR活動の範囲内で認可後の学生確保に向けた、全学的な取組を以下の通り行う。

- ア. 大学院設置認可申請と同時に、学内の学部学生および博士前期課程の学生を対象に大学院説明会を開催する。ガイダンスを重ねる中で、進路相談を随時受け付け、何を学び、何を研究していくのかを具体的に説明する機会とする。
- イ. 学内のポータルサイトを通じて対象学生に告知をするとともに、理工学部ホームページを通じて工学研究科生命理学専攻を広くアピールする。
- ウ. 留学生向けに英語ホームページを用意するほか、留学生向けの説明会を広く行う。特に中国・韓国・タイ等の海外事務所に新しい専攻の紹介パンフレットや募集要項を配布し、留学生の募集に努めていく。
- エ. 進学情報誌への掲載や新聞広告等の掲載を通じて、広く国内外にアピールを行い新専攻の概要と学生募集の内容の周知を図っていく。
- オ. 受験する世代に多く利用されている、SNSやホームページなどの電子媒体でも幅広く訴求し、学内外の受験希望者を募っていく。

平成26年「スーパーグローバル大学創成支援」に本学が採択され、留学生向けの広報宣伝活動が活発となり、多くの受験生が志願するようになってきた。今年度に入學した生命情報工学専攻の1年生は台湾、マレーシア、韓国と多様な国々からの留学生を受け入れた。

特に平成 28 年度から始まった、JICA 主催のシリア難民に対する人材育成事業の「シリア平和への架け橋人材育成プログラム」に本研究科も参加しており、現在研究生として工学研究科で受け入れている 2 名のシリア留学生の内、1 名が生命情報工学専攻とした。

本プログラムは、将来のシリア復興を担う人材を育成する観点から、JICA の技術協力等を活用し、5 年間で日本全国の大学で最大 100 名のシリア人留学生を受け入れるプログラムとなっており、JICA と UNHCR との協定に基づき実施されている。

具体的には、平成 29 年 9 月から平成 33 年 9 月まで、シリア人留学生を日本の大学院で最大年間 20 名を受け入れるもので、学位（修士）の取得を支援することになる。

本学では経済学研究科国際ビジネス専修と、工学研究科の 3 専攻が対象となり、募集をしたところ、工学研究科情報システム工学専攻と生命情報工学専攻に 1 名ずつ採用された。

本年も本学の工学研究科に対し 6 名の志願者がおり、そのうち数名が生命情報工学専攻を希望している。

順調に手続きが進み、今回の生命理学専攻の設置認可が認められた際には、上記の取組にも反映して世界平和・国際貢献の一助にして参りたい。

(3) 定員未充足の学科（通信教育課程）の学生確保に向けた具体的な取組状況

過去 5 年間にわたり、定員超過率が 0.7 倍未満となっている通信教育課程のうち、経済学科及び法律学科では、平成 30 年 4 月に入学定員を変更し、経済学科、法律学科ともに 1 年次入学定員を 1,000 名、3 年次編入学定員を 100 名に変更する予定である。

この 1,000 名の入学定員の設定については、引き続き教育の機会均等及び、生涯学習のニーズの高まりに対応するため、過去 5 年間の入学者数に過年度の在籍者数を加味した数値、また減員後の収容定員数を参考とした。

過年度の在籍者数、および収容定員数を参考にしたのは、仕事の形態が多様化する昨今にあって、主にスクーリングを実施している土日等に社会人が休日を確保し、学習に時間を継続してとることが難しい状況などがある中、卒業までにかかる時間が通学課程よりも長期にわたることが考えられるからである。

そうした考えから入学定員の設定にあたり、具体的には、経済学科、法律学科の過年度の在籍学生数を含めた合計数について、過去 5 年間の平均値を 4 学年で除したうえで、さらにその数値を 0.7 で除した数値を参考とした。また、在籍学生総数の過去 5 年間の平均値を減員後の収容定員数（4,200 名）で割った数値もあわせて参考とした。

なお、児童教育学科については、平成 27 年度より 700 名の定員を 350 名に減じる届出をおこない、定員の充足の改善に努めている。

また、学生確保に向けた取組も次のように力を入れている。

- ア. 平成 27 年度からは学びの門戸をより大きく広げ、通信教育課程への入学のきっかけとなっていくよう科目等履修・自由選択コースで開設されていた科目を、7つのテーマに分類し、3科目を1つのパックにして受講できるシステムを導入した。
これにより科目等履修生の入学者が平成 27 年度より増加した。
- イ. 科目等履修での学びを終えた学生に、正科課程の入学パンフレットを配布するなど、入学啓蒙も積極的に実施しており、本学通信教育課程で学んだ学生が、今後正科課程に入学することも大いに期待できる。
- ウ. 本学通信教育課程では平成 26 年度より大幅なカリキュラム改訂を行い、これまでに以上に学びやすい科目編成へと改革を実施した。更にスクーリングにDVDによるメディア授業を加え、自宅における学習が進むように改善した。
- エ. 学習サポートを総合的に実施する「学習支援推進室」を設置し、メディア授業の双方向性を確保する他、学習サポート体制を充実させた。また、ICT化の推進によって現在すでに、履修登録、スクーリングの申込、成績表の確認などがWEBで行えるようになっているが、卒業に必要なスクーリング単位を、自宅での学習による「eスクーリング（オンデマンド）」で修得できるeスクーリング科目を拡充し、日本だけでなく世界のどこからでも学べる環境を充実させる。
- オ. 収容定員を減ずる予定の経済学科・法律学科の他、0.7倍に満たない、教育学科・児童教育学科についても、これらの取組を今後より一層の広報宣伝を図り、定員充足の改善に努めていく。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

博士後期課程で養成する人材像は、特定の研究分野に取り組み知識を深めるとともに、その研究を論理的に進展させ、学位論文を完成させることに留まらず国際学会で研究発表の機会を持つことにより、国際的コミュニケーション能力を発揮させることを求められる。

また専門的知識の教授のみではなく、研究を通しての論理的な思考の訓練、研究成果の発表や議論を通してのプレゼンテーション能力の開発や説得力の修得を促し、生命科学系の業界でなくとも知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成し育成することを目的としている。

理工系人材育成に関する産学官円卓会議の中で平成 28 年 8 月に産学官が協働して平成 28 年度から重点的に着手すべき取組を「理工系人材育成に関する産学官行動計画」として取りまとめた「産業界における博士人材の活躍の促進方策」において、企業から大学等への投資を今後 10 年間で 3 倍に増やすことを目指し、教育機関は、本格的な産学共同研究への実施に向け、産学連携活動の位置づけの向上や取組み体制の強化等を行うこととしている。

また、学生の産学共同研究への参加機会を拡大するとともに、産学共同研究等を通して、産業界においては、個々の博士人材の能力を見極めた上で、博士人材の採用

・配置・処遇等の見直しの検討を進めることなどにより、人材育成・確保に取り組むこととしている。

これらのことから、産学官において理工系人材育成の取組を推進する方策を検討・実行し、理工系人材の質的充実・量的確保が図られることが期待される。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることへの客観的根拠

文部科学省が設置する科学技術・学術審議会人材委員会では、平成29年1月に、博士人材を「育成する場」である大学院博士課程の動向を念頭に置きつつ、博士人材の「活躍する場」である社会との接点に関する部分に焦点を当て、今後の取組の方向性を検討し、「博士人材の社会の多様な場での活躍促進に向けて～“共創”と“共育”による「知のプロフェッショナル」のキャリアパス拡大～（これまでの検討の整理）」を取りまとめた。

科学技術イノベーションの重要な担い手は若手研究者であり、優れた若手研究者の育成・確保を図ることが必要である。そのためには、優秀な者が博士課程に進学することで、知的プロフェッショナルである博士人材となるとともに、若手研究者として、安定した雇用と流動性の両立を図りながら、自らの研究活動に専念し、成果を上げることができるよう、研究費獲得の機会の増大や環境整備を進めることが重要である、とある。(平成30年度版科学技術白書より)

博士前期課程同様に2005年ならびに2011年中央教育審議会答申を踏まえて、大学院教育の実質化を図る。様々なデータ解析手法を習得させ国際的かつ権威ある査読制度を有する学術雑誌へ投稿論文作成能力の養成のため演習科目を開講する。

さらに狭い研究分野に限らず、俯瞰的にものを見る目を養うため、各研究室が研究している科学的分野の背景や問題点、その分野の研究動向や先端技術等を紹介する。

また注目されている新しい知見や技術を論文等の紹介を通して行い、学生各自の研究分野のみならず生命科学全般の動向について把握できるように努める。

博士後期課程で養成する人材像は、国際性を持った研究者、大学教員である。これまでの「生命情報工学専攻」において23名の博士学位取得者を出しているが、そのほとんどが、放射線医学総合研究所、理化学研究所や産業総合研究所、英国のImperial Collegeや米国Massachusetts大など国内外の大学や研究機関の博士研究員、助教として就職しており、すでにパーマネントの職を得た者もいる。

科学技術が高度化するにつれ、企業等でも博士号取得者に対する要求は高まっており、人材派遣会社等でも博士号取得者が必要とされている。このような状況に鑑み、今後も博士号取得者を養成する。

資 料 目 次

資料 1 : **【理工学部 3 年生対象】 創価大学大学院**

設置構想についての学部生アンケート調査

資料 2 : アンケート・学部生向け(調査結果)

資料 3 : 各大学通信教育課程 入学定員一覧

資料 4 : 創価大学通信教育部

過去 5 年間の入学者数および入学定員充足率

資料 5 : 日本 CRO 協会 **【2016 年年次業績報告】**

会員の総従業員数の業務別割合の推移

資料 6 : **【博士前期課程 1 年生、進学予定者対象】 創価大学大学院**

設置構想についての学部生アンケート調査

資料 7 : アンケート・博士後期課程向け(調査結果)

資料 1

創価大学 大学院

理工学研究科 生命理学専攻（仮称）

設置構想についての学部生アンケート調査

対象：平成 30（2018）年 7 月現在

理工学部共生創造理工学科 3 年生

創価大学大学院は、平成 32（2020）年 4 月に、「理工学研究科生命理学専攻（仮称）」の修士課程の設置を検討しています。

この調査の中で、皆様の進路について率直な考えをお聞きすることにより、計画中の研究科・専攻や教育の内容に少しでも反映したいと考えています。

なお、皆様より得られた情報は、創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻（仮称）の設置構想に関する統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ありません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

質問数：9 問 （所要時間は 5～10 分程度です）

まずは、下記の創価大学理工学研究科生命理学専攻（仮称）の概要をお読みください。

平成 32（2020）年、創価大学大学院理工学研究科は修士課程および博士課程に、生命の仕組みを組織レベル、細胞レベル、分子レベルで学び、より多角的に生命現象を捉え、その研究を推進する手法の開発を含めて教育を行う「理工学研究科生命理学専攻」（仮称）を開設する予定です。

■ 基本情報

- 研究科専攻 : 理工学研究科生命理学専攻
- 学位 : 修士（理学）
- 入学定員 : 修士 15 名
- 設置予定 : 平成 32（2020）年 4 月

【専攻の特長】

- ◇ Active Learning と実験実習を重視した少人数教育
 - ⇒ 生命科学の進歩が現代社会に及ぼす影響を理解し、研究者や教育者、専門職業人を目指し、最先端で高度な専門的研究者人材を育成するため、少人数教育を実施します。
- ◇ 生命分子科学・細胞生命科学・生命情報科学・生命機能科学の 4 つの学び
 - ⇒ 原則として一つの分野の科目を集中して履修することで、体系的な学習を促す履修モデルを用意。研究に用いる実験装置の原理と応用を学習するなどの共通科目も開設します。
- ◇ インターンシップや海外研修を通じて問題解決力を養成
 - ⇒ 産業界の具体的な問題解決のための応用力を涵養するため、国内外の企業、政府・非政府機関においてインターンシップを行います。また海外の協定校で学ぶ語学研修やデュアルディグリーの制度も用意します。
- ◇ 授業は英語で実施するコースも用意
 - ⇒ 授業を英語で行うことによって、グローバル社会の問題を理解し解決しうるため、多様な国籍の人々と共に研究し、具体的な解決策を生み出すコミュニケーション力を育成します。

■ 八王子市内の類似研究科と学費

（単位：円）

大学名（研究科名）	入学金	授業料	実習費	初年次学費計
東京工科大学（バイオ研究科）	250,000	1,095,000	0	1,345,000
工学院大学（工学研究科）	250,000	908,000	100,000	1,258,000
創価大学（理工学研究科）	200,000	760,000	100,000	1,060,000

※ 創価大学の授業料には、施設設備費含む。

■ 予想される卒業の主な進路

海外や国内企業、国内外の大学院博士後期課程への進学を通じて研究機関や専門研究職への道が開かれます。

注：上記の内容は、設置準備段階の計画であり、変更をする場合があります。

あなたの性別について教えてください。

- 問1. 性別(いずれかに○) 1. 男性 2. 女性

あなたの大学卒業後の進路について教えてください。

問2. あなたは、大学卒業後どのような進路をお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 大学院進学 2. 一般企業 3. 公務員・団体職員
4. 教員 5. 専門職(資格を生かす職業) 6. まだ決めていない
7. その他(具体的に:)

問3. 問2で「1. 大学院進学」と回答された方におたずねします。どのような理由で「大学院進学」を希望しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 学部の教育・研究では不十分だから 2. 高度な専門的知識・能力を身につけたい
3. 大学院で研究したいテーマがある 4. 将来的に大学院修了程度の学歴、能力が必要
5. 研究職に就きたいから 6. 国際機関で働きたいから
7. 修士の学位を取得したいから 8. 博士の学位を取得したいから
9. その他(具体的に:)

問4. 問2で「1. 大学院進学」と回答された方におたずねします。あなたが将来進学したいと考えている専攻はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 生命理学専攻 2. 環境共生工学専攻 3. 情報システム工学専攻
4. その他(具体的に:)

問5からは理工学研究科生命理学専攻(仮称)の概要をご覧の上でお答えください。

問5. あなたは、創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻(仮称)に興味・関心をもちましたか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 大いに興味・関心がある }
2. 興味・関心がある } ⇒ 1 または 2 の方は 問6 問7 にお答えください。
3. あまり興味・関心がない }
4. わからない } ⇒ 3 または 4 の方は 問8 にお答えください。

裏面に続きます

問6. 問5で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方におたずねします。

それは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. もともと興味のある研究分野だから
2. 新しい視点からの研究ができそうだから
3. 社会の必要性に合致する研究内容だから
4. インターンシップが魅力的だから
5. 専門家として高度な知識を身につけられるから
6. 理学の学位(修士/博士)が取れるから
7. その他(具体的に)

問7. 問5で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方におたずねします。

設置される創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻(仮称)に進学を希望しますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. ぜひ進学したい
2. 条件が整えば進学を希望する
3. 将来、必要を感じた場合には進学を考える
4. 進学を希望しない
5. わらかない

問8. 問5で「あまり興味・関心がない」「わからない」と回答された方におたずねします。

それは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

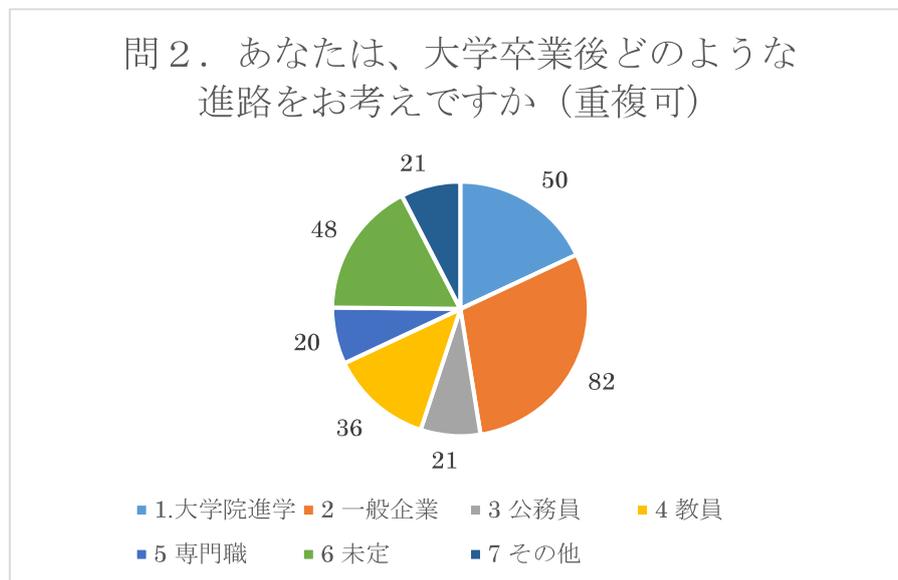
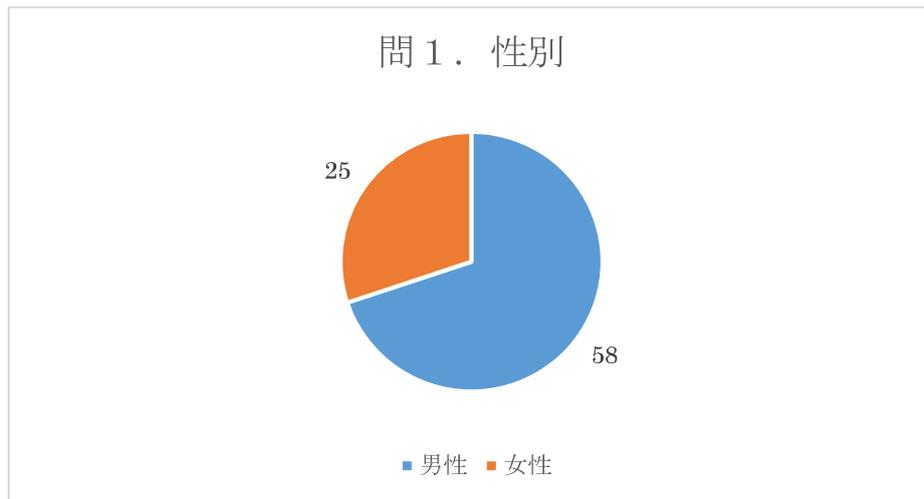
1. 構想内容に魅力を感じないから
2. 興味・関心のある学問分野がないから
3. 興味・関心のある学問分野はあるが、他大学の大学院への進学を検討しているから
4. その他()

問9. 創価大学で計画している新研究科に対するご意見・ご要望などあれば、ご自由にお書きください。

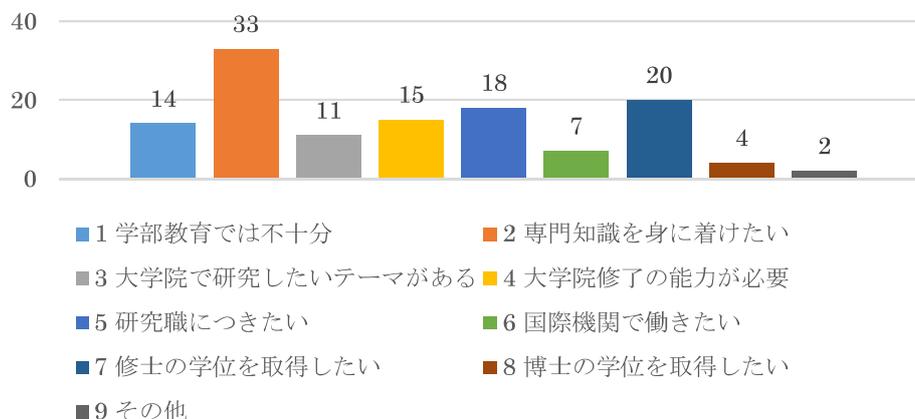
質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

工学研究科生命理学専攻アンケート・学部生向け

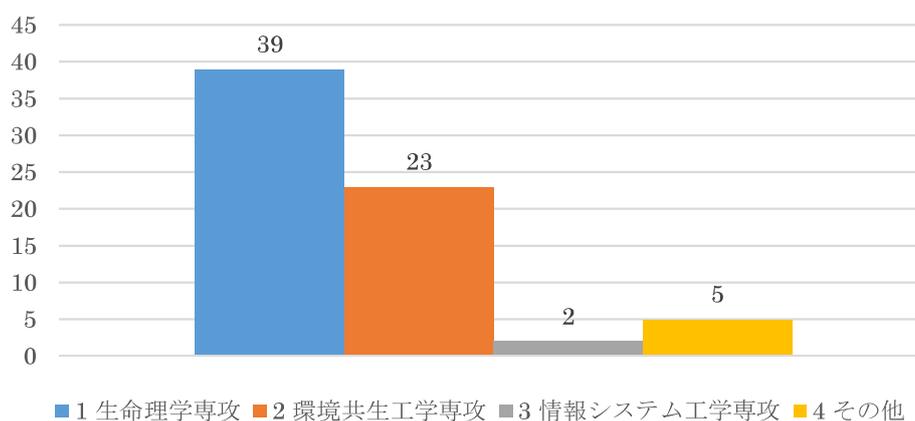
- ・調査時期 平成30年7月18日
- ・調査対象 新設となる専攻の基礎になる理工学部共生創造理工学科の3年生（110名）
- ・調査方法 大学院ガイダンスでの席上でのアンケート形式
- ・有効回答数 アンケート対象者110名に対し、有効回答数が84名で回答率は76.3%



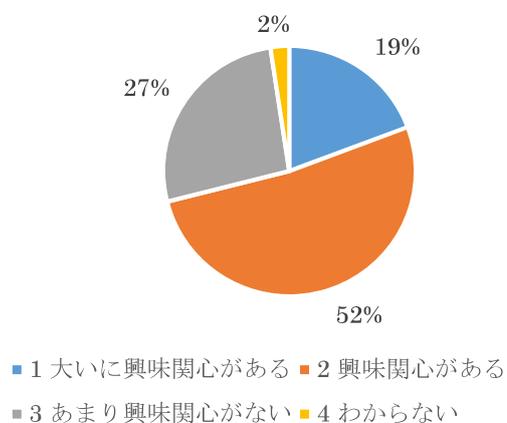
問3. どのような理由で「大学院進学」を希望しましたか(重複可)



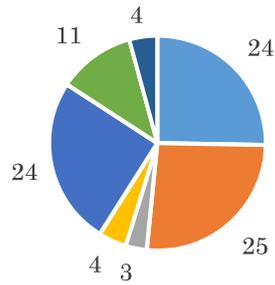
問4. あなたが将来進学したいと考えている専攻はどれですか



問5. あなたは、工学研究科生命理学専攻(仮称)に興味・関心をもちましたか

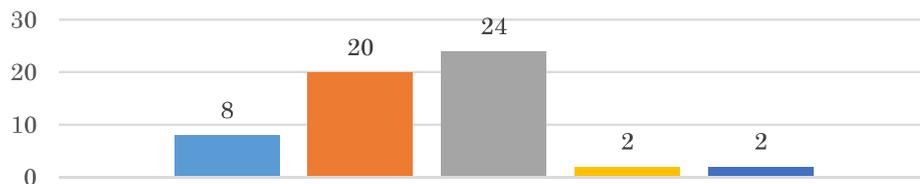


問6. 「興味・関心がある」と回答した理由



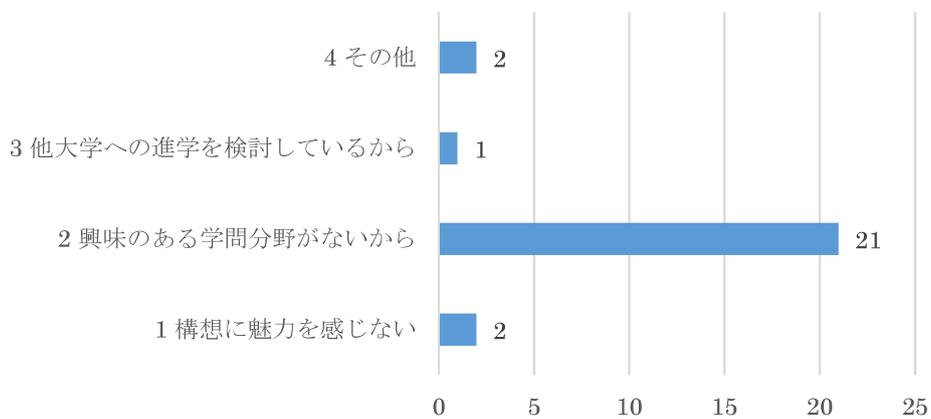
- 1 もともと興味のある研究分野だから
- 2 新しい視点からの研究ができそう
- 3 社会の必要性に合致する
- 4 インターンシップが魅力的
- 5 高度な知識を身につけられる
- 6 理学の学位がとれるから
- 7 その他

問7. 設置される工学研究科生命理学専攻（仮称）に進学を希望しますか。



- 1 ぜひ進学したい
- 2 条件が整えば進学を希望する
- 3 将来、必要性を感じたら進学を考える
- 4 進学を希望しない
- 5 わからない

問8. 「あまり興味・関心がない」のは、どのような理由からですか



【資料3】

昭和51年以前開設 各大学通信教育課程 入学定員一覽

大学	学部	学科	入学定員	参考URL	定員年度
法政大学	法学部	法律学科	3000	http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/outline/	H29
	文学部	日本文学科	3000		
		史学科			
	経済学部	地理学科	3000		
経済学科					
慶応義塾大学	文学部	第1類(哲学)	3000	http://www.tsushin.keio.ac.jp/admissions/period.html	H28
		第2類(史学)			
		第3類(文学)			
	経済学部	4000			
法学部	甲類(法律学)	2000			
		乙(政治学)			
中央大学	法学部		3000	http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/overview/headcount/headcount04.html	H29
日本女子大学	家政学部	児童学科	1000	https://www.iwu.ac.jp/ccde/unv_exam/admission.html	H29
		食物学科	1000		
		生活芸術学科(科目等履修生)	1000		
日本大学	法学部	法律学科	3000	「平成29年度 入学要項JP.2参照」(http://www.dld.nihon-u.ac.jp/pdf/admission/request/h29_entrance_requirements.pdf)	H29
		政治経済学科			
	文理学部	文学専攻(国文学)	3000		
		文学専攻(英文学)			
		哲学専攻			
史学専攻					
経済学部	経済学科	1500			
商学部	商業学科	1500			
玉川大学	教育学部	教育学科	1500	http://www.tamagawa.jp/correspondence/admission/guideline.html	H29
佛教大学	仏教学部	仏教学科	300	http://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/about/data/capacity/	H29
	文学部	日本文学科	300		
		中国学科	150		
		英米学科	300		
	歴史学部	歴史学科	150		
		歴史文化学科	300		
	教育学部	教育学科	1000		
	社会学部	現代社会学科	500		
公共政策学科		500			
社会福祉学部	社会福祉学科	1200			
近畿大学	法学部	法律学科	2000	「近畿大学通信教育法学部法律学科規程(抄)」参照(http://www.kindai.ac.jp/tsushin/guide/download-data/kitei_law.pdf)	27年改正(附則参照)
	短期大学部	商経科	2000	「近畿大学短期大学部通信教育部商経科規程(抄)」参照(http://www.kindai.ac.jp/tsushin/guide/download-data/kitei_tanki.pdf)	27年改正(附則参照)
明星大学	教育学部	教育学科	2000	http://ebook.naninaru.net/naninaru/U64800_2017voko/ 「2017年度学生募集要項JP.4参照」	H29

【資料4】

創価大学通信教育部 過去5年間の入学者数および入学定員充足率

年度	学部・学科	1年次 入学定数(名)	1年次 入学者数(名)	3年次 編入学定数(名)	3年次 編入学者数(名)	1年次入学 定員充足率	3年次編入学 定員充足率
平成26年度	経済学部・経済学科	2,000	185		75	0.09	0.09
	法学部・法律学科	2,000	162		61	0.08	0.08
	教育学部・教育学科	300	211		142	0.70	0.70
	教育学部・児童教育学科	700	96		180	0.13	0.13
	全学部・学科合計		654		458		
	全学部・学科平均		163.5		114.5		
平成27年度	経済学部・経済学科	2,000	134		55	0.06	0.06
	法学部・法律学科	2,000	137		55	0.06	0.06
	教育学部・教育学科	300	160		157	0.50	0.50
	教育学部・児童教育学科	350	100		147	0.28	0.28
	全学部・学科合計		531		414		
	全学部・学科平均		132.7		103.5		
平成28年度	経済学部・経済学科	2,000	151		48	0.07	0.07
	法学部・法律学科	2,000	127		74	0.06	0.06
	教育学部・教育学科	300	165		141	0.55	0.55
	教育学部・児童教育学科	350	88		129	0.25	0.25
	全学部・学科合計		531		392		
	全学部・学科平均		132.7		98		
平成29年度	経済学部・経済学科	2,000	140		69	0.07	0.07
	法学部・法律学科	2,000	146		58	0.07	0.07
	教育学部・教育学科	300	143		129	0.48	0.48
	教育学部・児童教育学科	350	80		102	0.23	0.23
	全学部・学科合計		509		358		
	全学部・学科平均		132.7		89.5		
平成30年度	経済学部・経済学科	1,000	85	100	42	0.09	0.42
	法学部・法律学科	1,000	59	100	34	0.06	0.34
	教育学部・教育学科	300	50		128	0.17	
	教育学部・児童教育学科	350	55		111	0.16	
	文学部	750	559	100	0	0.75	
	全学部・学科合計		808		315		
	全学部・学科平均		161.6		63		
過去5年間の入学者数・3年次編入学者数合計 (平成26年～平成30年)			3033		1937		
過去5年間の入学者数・3年次編入学者数平均 (平成26年～平成30年)			606.6		387.4		

※ 在籍人数は、平成29年5月1日現在

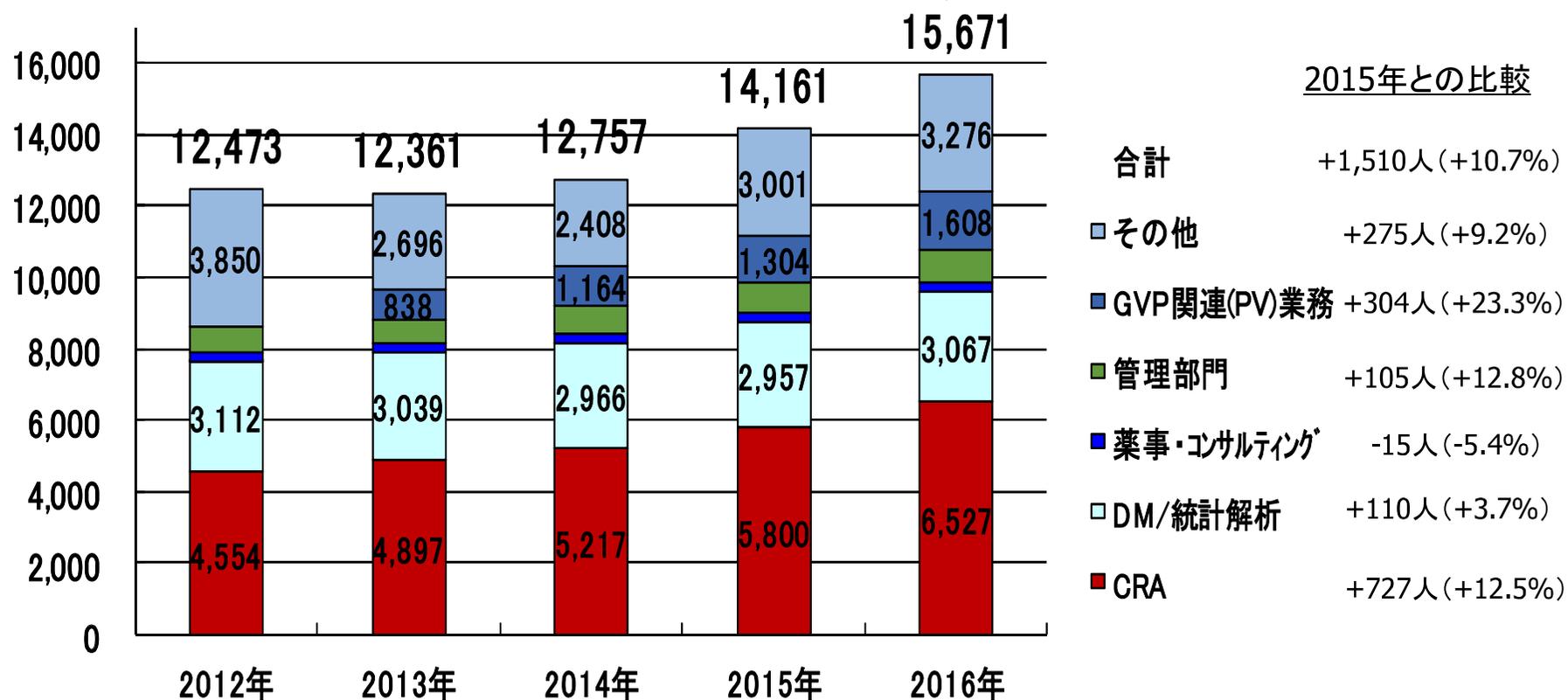
※ 2016年度より、専門学校卒業者の編入学を2年次から3年次に変更

JCROA 日本CRO協会

会員の総従業員数の業務別割合の推移

(単位：人)

2013年からは3,310人増(26.8%up)



2013年より、その他業務からGVP関連(PV)業務を切り出した

資料 6

創価大学 大学院

理工学研究科 生命理学専攻（仮称）

設置構想についての学部生アンケート調査

対象：平成 30（2018）年 7 月現在

博士前期課程 1 年生及び進学内定者（学部 4 年生）

創価大学大学院は、平成 32（2020）年 4 月に、「理工学研究科生命理学専攻（仮称）」の修士課程の設置を検討しています。

この調査の中で、皆様の進路について率直な考えをお聞きすることにより、計画中の研究科・専攻や教育の内容に少しでも反映したいと考えています。

なお、皆様より得られた情報は、創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻（仮称）の設置構想に関する統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ありません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

質問数：9 問（所要時間は 5～10 分程度です）

まずは、下記の創価大学理工学研究科生命理学専攻（仮称）の概要をお読みください。

平成 32（2020）年、創価大学大学院理工学研究科は修士課程および博士課程に、生命の仕組みを組織レベル、細胞レベル、分子レベルで学び、より多角的に生命現象を捉え、その研究を推進する手法の開発を含めて教育を行う「理工学研究科生命理学専攻」（仮称）を開設する予定です。

■ 基本情報

- 研究科専攻 : 理工学研究科生命理学専攻
- 学位 : 博士（理学）
- 入学定員 : 博士 5 名
- 設置予定 : 平成 32（2020）年 4 月

【専攻の特長】

- ◇ Active Learning と実験実習を重視した少人数教育
 - ⇒ 生命科学の進歩が現代社会に及ぼす影響を理解し、研究者や教育者、専門職業人を目指し、最先端で高度な専門的研究者人材を育成するため、少人数教育を実施します。
- ◇ 生命分子科学・細胞生命科学・生命情報科学・生命機能科学の 4 つの学び
 - ⇒ 原則として一つの分野の科目を集中して履修することで、体系的な学習を促す履修モデルを用意。研究に用いる実験装置の原理と応用を学習するなどの共通科目も開設します。
- ◇ インターンシップや海外研修を通じて問題解決力を養成
 - ⇒ 産業界の具体的な問題解決のための応用力を涵養するため、国内外の企業、政府・非政府機関においてインターンシップを行います。また海外の協定校で学ぶ語学研修やデュアルディグリーの制度も用意します。
- ◇ 授業は英語で実施するコースも用意
 - ⇒ 授業を英語で行うことによって、グローバル社会の問題を理解し解決しうるため、多様な国籍の人々と共に研究し、具体的な解決策を生み出すコミュニケーション力を育成します。

■ 八王子市内の類似研究科と学費

（単位：円）

大学名（研究科名）	入学金	授業料	実習費	初年次学費計
東京工科大学（バイオ研究科）	250,000	1,095,000	0	1,345,000
工学院大学（工学研究科）	250,000	908,000	100,000	1,258,000
創価大学（理工学研究科）	200,000	760,000	100,000	1,060,000

※ 創価大学の授業料には、施設設備費含む。

■ 予想される卒業の主な進路

海外や国内企業、国内外の大学院博士後期課程への進学を通じて研究機関や専門研究職への道が開かれます。

注：上記の内容は、設置準備段階の計画であり、変更をする場合があります。

あなたの性別・学科学年について教えてください。

問1. 性別(いずれかに○) 1. 男性 2. 女性

問2. 学科学年(いずれかに○) 1. 生命情報工学専攻修士1年 2. 共生創造理工学科 4 年

あなたの大学卒業後の進路について教えてください。

問3. あなたは、博士前期課程終了後どのような進路をお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 大学院博士後期課程進学 2. 一般企業 3. 公務員・団体職員
- 4. 教員 5. 専門職(資格を生かす職業) 6. まだ決めていない
- 7. その他(具体的に:)

問4. 問3で「1. 大学院博士後期課程進学」と回答された方におたずねします。どのような理由で「大学院進学」を希望しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1. 修士の教育・研究では不十分だから 2. 高度な専門的知識・能力を身につけたい
- 3. 大学院で研究したいテーマがある 4. 博士の学歴・能力が必要だから
- 5. 研究職に就きたいから 6. 国際機関で働きたいから
- 7. 博士の学位を取りたいから 8. その他(具体的に:)

問 5. 問3で「1. 大学院進学」と回答された方におたずねします。あなたが将来進学したいと考えている専攻はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 生命理学専攻 2. 環境共生工学専攻 3. 情報システム工学専攻
- 4. その他(具体的に:)

問 5 からは理工学研究科生命理学専攻(仮称)の概要をご覧の上でお答えください。

問6. あなたは、創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻(仮称)に興味・関心をもちましたか。

(あてはまるもの1つに○)

- 1. 大いに興味・関心がある
 - 2. 興味・関心がある
 - 3. あまり興味・関心がない
 - 4. わからない
- ⇒ 1 または 2 の方は 問 6 問 7 にお答えください。
- ⇒ 3 または 4 の方は 問 8 にお答えください。

裏面に続きます

問7. 問6で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方におたずねします。

それは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. もともと興味のある研究分野だから
2. 新しい視点からの研究ができそうだから
3. 社会の必要性に合致する研究内容だから
4. インターンシップが魅力的だから
5. 専門家として高度な知識を身につけられるから
6. 理学の学位(博士)が取れるから
7. その他(具体的に)

問8. 問6で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方におたずねします。

設置される創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻(仮称)に進学を希望しますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. ぜひ進学したい
2. 条件が整えば進学を希望する
3. 将来、必要を感じた場合には進学を考える
4. 進学を希望しない
5. わらかない

問9. 大学院博士後期課程進学を希望される方におたずねします。

生命理学専攻を設置するにあたり、平成32年度より生命情報工学専攻の募集停止を予定しております。

生命情報工学専攻で修士(工学)を取得した後、生命理学専攻で取得可能な学位は博士(理学)になります。

これについてどのようにお考えですか(あてはまるもの1つに○)

1. 生命理学専攻の博士で特に問題ない
2. どちらでも構わない
3. 工学博士を目指していたので、困る

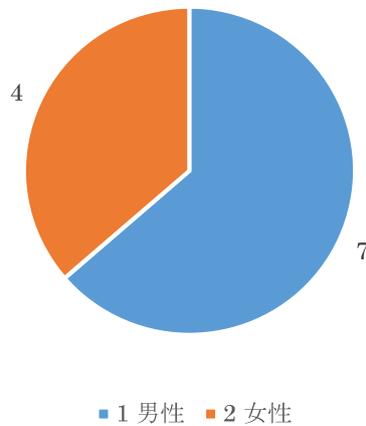
問10. 創価大学で計画している新研究科に対するご意見・ご要望などあれば、ご自由にお書きください。

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

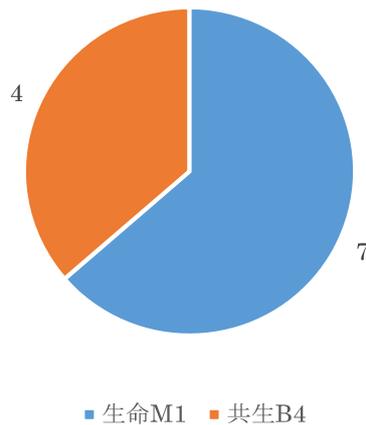
工学研究科生命理学専攻アンケート・博士後期課程向け

- ・調査時期 平成 30 年 7 月 18 日
- ・調査対象 新設となる博士後期課程が対象の工学研究科生命情報工学専攻 1 年生等
- ・調査方法 大学院ガイダンスでの席上でのアンケート形式
- ・有効回答数 博士前期課程 1 年生 6 名及び進学内定者（学部 4 年生 4 名）の合計 11 名

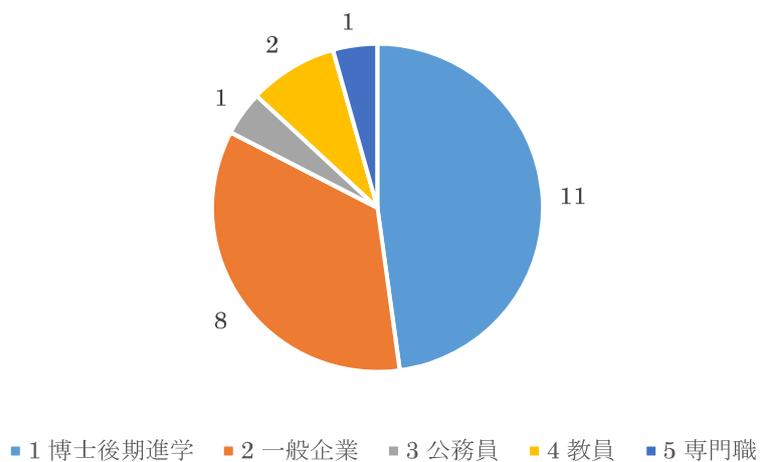
問 1. あなたの性別について教えてください



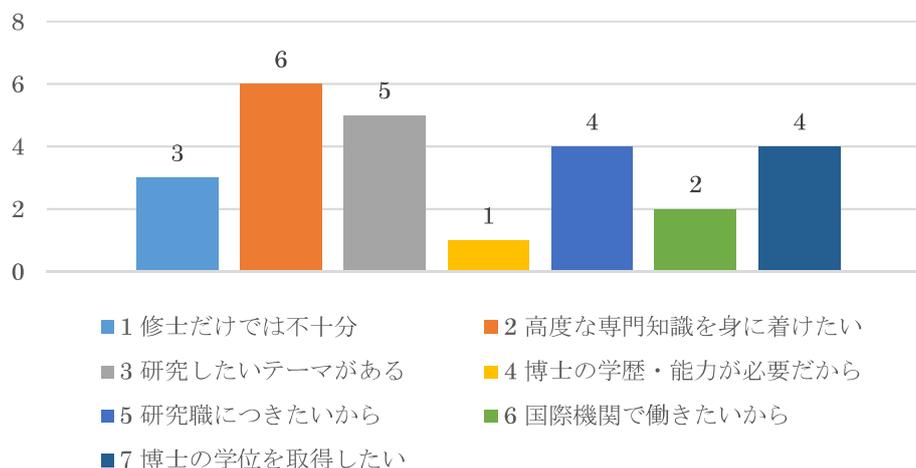
問 2、学科・学年



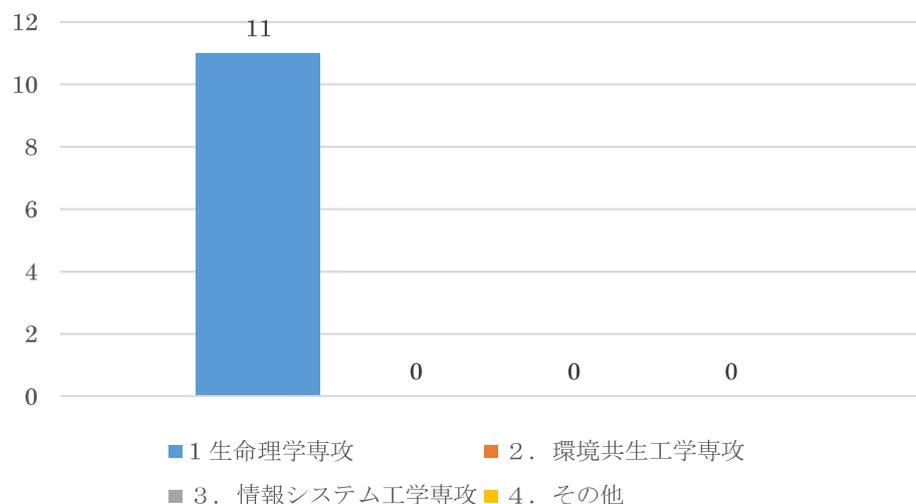
問3. 博士前期修了後の進路について



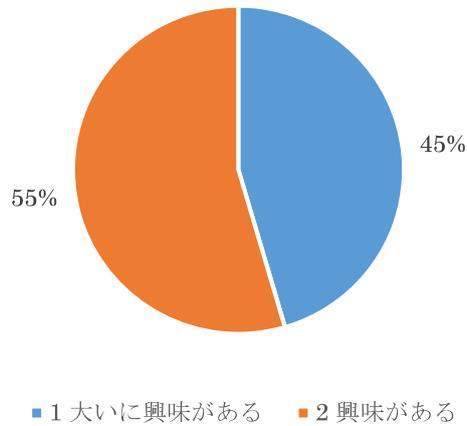
問4. 「大学院進学」の希望理由について



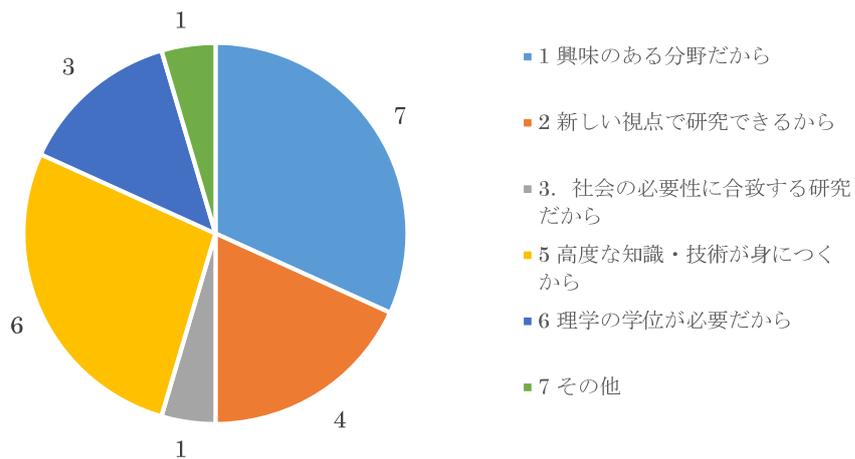
問5. 進学したいと考えている専攻について



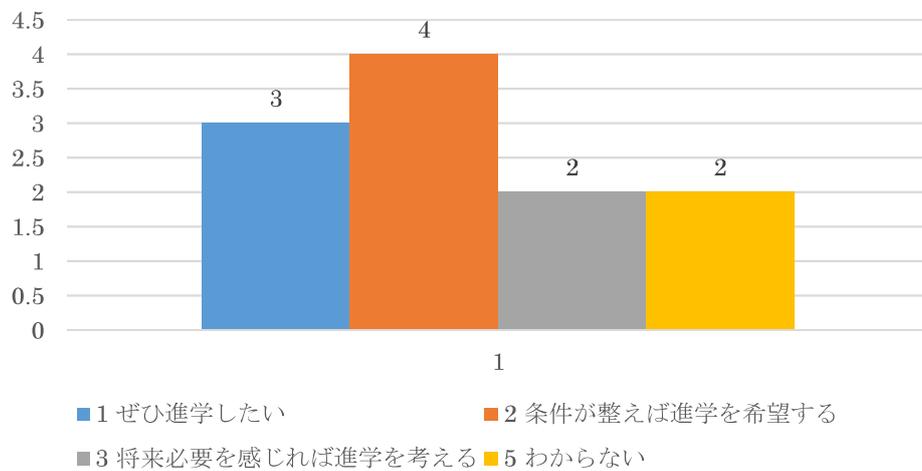
問6. 生命理学専攻に興味・関心の有無



問7. 「興味・関心がある」と回答した理由



問8. 生命理学専攻に進学を希望しますか



問9.博士（理学）への可否

